

冬虫夏草を多数確認

久保 弘幸

筆者は、昨夏と今夏、豊岡市日高町山本にある西垣古墳群の発掘調査に従事したが、その際、セミタケを多数確認したので報告する。

発見場所は標高 100～103m の山頂であり、発見前はコナラを主体とした雑木林と、スギ・ヒノキの植林に被われていた。冬虫夏草は約 2,000 m²を対象とした発掘調査の過程で、表層の腐植層から多数発見された。発見総数は 100 個体を優に超えるものと思われるが、多くの人を持ち帰ったことと、掘削の際に破損したのも多かったことから、採集したのはごく一部にとどまる。

いずれもセミ(未同定)の、終齢ないしはそれに近い幼虫に寄生したもので、セミタケ類に属するものであろう(写真)。



幼虫の頭部から枝分かれしたひげ根状の菌糸を伸ばすものと、幼虫頭部が白色でカビ状の菌糸に包まれたものの2種類が見られたが、これらが同種のセミタケにおける形状の違いであるのか、セミタケの種そのものが違っているのかについては、専門家の同定を仰がねばならない。

(Hiroyuki KUBO 兵庫県明石市)